

グラウンドワークとは・・・

市民・企業・行政がパートナーシップをとりながら、地域の環境改善などを行う活動です。あなたもぜひ活動にご参加ください。  
(文中グラウンドワークをGWと表記することがあります。)

## ～ GW三島と英国 (UK) GW 協力関係強化～



GW三島では 10/9～10/15 までの予定で訪英し、英国GWの手法を活用し日本のNPO

の人材育成をと「GW全国研修センター」の設置への支援を要請し話し合いの結果UKGWが積極的に支援するなど協力関係を強化することで合意した。  
(左写真中央は、英国GWのホークヘッド所長と渡辺豊博事務局長)

## ～ GW全国研修センター開設記念 シンポジウム～

11/23,24 UKGWから派遣されたホワイトさんとゴーマンさんが講師でUKGWの役割と実践事例を紹介。また「日英のGW活動から何を学びあえるか」をテーマにパネル討論では、日英GWの特徴などを論じ合った。三島の「GW全国

研修センター」は、地域リーダーや全国GW団体、行政マン、大学生などを対象に人材、組織育成などを展開していく予定。



## ～ 地域再生の視点で 水辺のガイド養成講座～



GW三島では、まちづくりの視点から三島の魅力を解説する市民ガイド「エコ・インストラクター養成講座」を開講した。講座は内閣府の助成を受けてスタートしたもの。

「三島で培ったGW三島の地域再生のノウハウは大きな観光資源になる。」また、箱根西麓野菜に代表される農業、源兵衛川の環境デザインなど三島特有の観光ポイントを掘り下げインストラクターを通じて来訪者に発信していく。続いて「リバー・インストラクター養成講座」も開講した。(関連記事P3)

## ～ 清流を通じた環境美化～

静岡ロータリークラブの会員ら約40人が「富士山エコピクニック」を行った。会員らは

清水町の柿田川、三島市の湧水ポイントなどを訪れ、清流を通じた環境美化について考えるとともに「源兵衛川」では美化活動を展開した。市街地にもかかわらず、流れる水の美しさに「三島市民は環境意識が高い」と驚きながら上流部の1.5km区間のゴミを拾い集めた。

源兵衛川を市のシンボルによみがえらせたGW三島の、小松幸子理事、渡辺豊博事務局長が、活動当初の川の様子やこれまでの取り組みを紹介した。



## ～ ヨルダンの行政関係者等 約30名が視察～

JICA(独立行政法人国際協力機構)主催事業の一環として、NPO法人国際環境



教育機構が窓口となり、ヨルダンの行政関係者が12/14三島を訪れた。

温暖な国からの人々は、三島の冬の寒さに震えながらも熱心にGW三島の実践地を視察した。視察案内は小松幸子理事、全般的な説明は渡辺豊博事務局長、行政側の説明は三島市役所せせらぎ事業推進課の宮崎眞行さんが担当。

アラビア語の通訳は、日本人や日本文化に魅せられて来日した東京在住のエジプト人。ヨルダンの方々も、自国のオアシスの水量減少の理由を調べる上で、GW三島の取り組みはとても参考になったとのこと。「市民・NPO・企業・行政のパートナーシップによる環境創造活動」についての質疑応答は、時間を忘れるほどだった。

## ～ 花開いた21団体の活動・うれしい数々の受賞～



都市景観大賞  
「美しいまちなみ大賞」等



源兵衛川下流  
疎水百選に決定



ほたるの里  
静岡県都市景観賞日本造園建設業協会県支部賞



函南さくら保育園  
「第4回全国学校ピオトープコンクール2005」優秀賞

## GW 三島の第 3 回英国(UK)GW 視察

最新 UKGW 事情視察のため、渡辺豊博 GW 三島事務局長を団長に、原知信さん、杉本政博さん、金谷久尚さんから GW 三島のコアスタッフたちがグラウンドワーク発祥の地・英国へ出掛けました。今回は、日本 GW 協会の松下重雄さんや田中実静岡新聞記者も同行し、平成 17 年 10 月 9 日から 15 日までの 1 週間、バーミンガム、マンチェスター、オールダム & ロッチデールなどを訪れました。

バーミンガムの UKGW 事務所では、トニー・ホークヘッド事務局長と面談し、日本で初めて三島に 11 月開設予定の「GW 全国研修センター」を、UKGW が積極的に支援するなどの協力関係の強化が合意さ

れました。11 月には早速、UKGW が 2 人の講師を三島の GW 全国研修センター開設時に派遣してくれることになりました。

一行は、マンチェスターで、荒廃した運河を憩いの場に再生したまちづくりの事例等を視察し、オールダムでは、社会不適応者への雇用支援プログラムとしてのきめ細かな職業訓練の様子等を視察しました。いずれも、GW 三島にとって大変参考になる事例で、日本で初めての環境・まちづくり活動の実践現場を備えた人材育成施設「GW 全国研修センター」の開設に向け、意欲に燃えての帰国となりました。

### 「GW 全国研修センター」三島開設記念・日英研修会

平成 17 年 11 月 23 日(水)24 日(木)の両日、日英研修会が開催されました。23 日の午前中は、バス 1 台で GW 三島の実践地の視察。午後は、みしまプラザホテルを会場に「清流の街がよみがえった」と題する GW 三島の活動報告があり、引き続き「日英の GW 活動から何を学びあえるか」をテーマに、シンポジウムで日英の知恵を出し合いました。

英国からは、GWUK から派遣されたフィオナ・ホワイトさんとアンジェラ・ゴーマンさんが、英国の GW の歴史や役割、リバプール近郊の廃棄物埋め立て地の再生などの実践事例を報告しました。また、「英国の GW では、政策提言数とその実現数がトラスの価値を決める」「英国には、専門家が自分の時間を割いてボランティア活動に取り組む精神はない」など、興味深い発言もありました。通訳は、グローバル文化交流協会の伊藤久弘さんと、北海道の通訳・翻訳業の小田高史さん、東京都の早稲田大学国際部国際課の園田亜紀ロクサーナさんが担当しました。また、日本 GW 協会金蔵法義専務理事、GW 三島コアスタッフの杉本政博さんもパネリストとして登壇し、コーディネーターを渡辺豊博事務局長が務めました。

全国から約 100 名の熱心な参加者があり、夕方からの GW 三島各賞受賞ならびに渡辺豊博事務局長著『清流の街がよみがえった』出版記念の交流会まで、環境談義やまちづくり談義等で盛り上がりました。

24 日は、Via701 でワークショップが開かれました。英国の GW ケントテムズサイドのホワイトさんは、「持続可能な開発のための教育」と題して語り、同 GW マートンのゴーマンさんは、「住民参加の実践的なプロジェクトの企画開発」について述べました。特にホワイトさんは、将来へ持続できる新しいライフスタイルを作っていくには、教育がカギと強調し、ブレア首相の方針である「教室の中だけでなく、社会で実践しながら新しいライフスタイルを身に付けていくべき」をあげ、子供たちの様々な生活の場面を紹介しました。さらに、「英国では、専門家が必要な事業の場合、雇用できるだけの予算があるが、ボランティアだけだとバランスがとれないこともありうるのでは？」という GW 三島への指摘もありました。

英国からの 2 人にとって、日本は初めてだったので、いろいろ体験したいことがありました。公式行事の前後に、GW 三島のメンバーたちと、普段着の交流も深めましたので、ミニアルバムで紹介します。



1) 清流・源兵衛川上流部にて



2) 夕暮れの富士山の姿に感動した松毛川流域で



3) 「バイリンガル環境かるた」に感心しきっていた 2 人



4) 抹茶を味わい、露天風呂体験もし、豊に布団で寝る予定の 2 人と



5) もっと大きな富士山のやっとの出現で、さらに感動



6) カラオケを体験したい 2 人と日英若さ発散合戦



### くぼ 窪の湧水池

写真: 昨年 12 月の現地勉強会 (長泉町竹原)

特種製紙(株)所有の水源。前身の高野製紙所時代に、紙の製造の工業用水として使用しており、取水井戸が今も残る。長泉町唯一の湧水池である。

富士山麓の水が湧き出ている「窪の湧水池」(長泉町竹原)のピオトープづくりに、GW 三島が一役買うことになり、昨年 11 月に説明会、12 月には、昆虫、植物、野鳥などの専門家を招いて現地勉強会を開催した。3 月上旬には、特種製紙(株)が石積みや植栽を終えた。その後、GW 三島の主導で地域住民の参加を得て整備が進められる予定だ。

窪の湧水池は安政の大地震で湧水が湧き出たとされ、幅 8m、長さ 50m で、池の数力所から湧出がみられる。専門家によると、清流環境の指標生物であるシマアメンボや低水温でなければ生きられないプラナリア、水質に敏感なサワガニの幼体などが見つかった。また周辺の植物は地域本来の自然植生が残っている「貴重な森」だという。

## 「三島そば」復活を願って

GW 三島主催の「せせらぎシニア元気工房 そばつくり隊」が箱根西麓の畑に播いたそばが順調に生育し、12月上旬に収穫、年末のスタッフ会議で手作りそばを披露した。

初めてそば作りに挑戦した昨年と比べ、畑の面積を2倍に広げたこと、天候に恵まれたことなどから収穫量が増え、手作りそばの完成にこぎつけた。

箱根西麓の火山灰土はそば作りに適し、昔は盛んに栽培されていたが収穫後の手間がかかることなどから栽培量が減少、現在はほとんど栽培されていない。今回の収穫で、かつて箱根峠を往来する人たちに好まれた特産の「三島そば」復活が期待される。

### 受講生の方々の感想



### エコ・インストラクター養成講座

深山 幸子さん

講座の各先生方によるそれぞれ専門的な広範囲にわたる有意義な講義のお陰で、深く広くわが街「三島」の知識を増やすことが出来、とても嬉しい。改めて三島のよさを再認識。自分が生き、生かされているこの街の素晴らしさを、遠来の訪問客ばかりでなく身近な人たちにも伝えていきたいと思った。講座に携わってくださった全ての方々に多謝。

金子 諭さん

ただの活字でしかなかった「グラウンドワーク」「水辺の環境整備」「ピオトープ」といった言葉が、心の中で次第に生き生きとした現実の姿に形作られるようになった。せせらぎを散策しながら、清流に棲む魚たちや昆虫に思いを寄せ、野鳥やトンボ、蝶のとびかう姿に、そっと目をやっている自分を見出して、講座の成果に驚いている今日この頃である。

### リバー・インストラクター養成講座

栗田 悦子さん

「北は富士山、東は箱根、南は天城連山。朝夕の富士山はとて綺麗です。水の都・三島にお立ち寄りください」といつも手紙に書きます。富士山の雪解け水が湧水となって流れ、三島の生活と一体になっている水について、もっと知りたいという思いから受講しました。講座を受けるたびに、「このような素晴らしい街は他にない」と、感じています。

田村 和幸さん

この研修を「三島市(には限りませんが)の特性を深く理解して街づくりに参加するためのマイ・イメージ構築の場」と捉えて楽しみながら聴講しています。「グラウンドワーク三島」が行政・企業・市民と如何に関わり活動しているかを知ること、地域に調和した施策を見つける支店の役割を果たしていることを知りました。郷土の原風景と文化・その土壌である自然環境を総合的に構想するワクワク感があります。

# Smile スマイル 「素直であれ、謙虚であれ」をモットーに 越沼 正さん



越沼さんは22歳の時に突然の父の死にあった。それ以降、和菓子屋「銀月」を継ぐ傍ら、地域振興を念頭に、三石神社横を流れる源兵衛川のゴミを拾い、マス採り大会やホテル鑑賞会を催してきた。この体験を元に、日頃の考えをまとめたものを、1991年、「市制100年に向けて三島市のあるべき姿を問う」論文として応募し、見事に入選した。この作品を見た志村肇さんに勧誘され、同年9月に開催された「三島ゆうすい会」の設立総会に参加した。

平成4年(1992)には、三島ゆうすい会を中心に8団体で「グラウンドワーク三島実行委員会」が発足。以降、スタッフとして、川掃除や視察対応など地道に活動参加を続けてきている。この間、23年間続けてきた店をたたみ、平成9年(1997)、清水町伏見に「K美術館」を開館し現在に至っている。趣味は美術鑑賞は勿論のこと、人の集めない物を集めること。折込みチラシ、貸し本屋の漫画、ミニこけし等マニアックである。

活動参加での苦勞もあるが、活動を通じ多くの“面白い人々”と交流できたことが嬉しいと言う。座右の銘は、タイトルに掲げた通り。「思い上がると周りが見えなくなるから」と付け加えた。

### 境川・清住緑地収穫祭&野鳥観察会

昨年12月4日、境川・清住緑地愛護会が中心となって、餅つきと野鳥観察会(講師滝道雄)を行った。もち米は、6月に西小学校の児童が境川・清住緑地で田植えをしたもので、10月に刈り取った際は、一昨年より少し多い23kgのもち米を収穫。当日は小雨が降っていたが、子供たちと保護者が大勢集まり、つきたての餅にきな粉をまぶして食べたり、野鳥を観察したりと、自然の恵みに感謝しながら休日の午後を過ごした。

### 函南さくら保育園収穫祭

10月31日函南町さくら保育園(遠藤弥生園長)の園児が県立田方農業高校ライフデザイン科生の協力を得て、仲良く同園のピオトープ「遊子トープ」で、たわわに実ったもち米を収穫した。稲刈り後の田んぼにはカエルやバッタが飛び交い、園児たちは大はしゃぎだった。

### 客船「スカンジナビア号」保存へ買い取り運動

昨年3月末、海上レストランとしての営業を終えた沼津市西浦木魚の「スカンジナビア号」の保存・活用を目指し、スカンジナビア号を保存する会(大田黒敦雄代表)とGW三島が受け皿となり、船体を買取り取るトラスト運動を展開していくことが、1月29日「よみがえれスカンジナビア号」と題したシンポジウムで決まった。

トラスト活動は地元だけではなく全国に広げていく方針で、トラスト活動や「スカンジナビア号」周辺を含めた活用方法のアイデアを今後ホームページで募ることとした。

### 腰切不動尊、再整備完了後の例祭

GW三島が市から依頼された腰切不動尊の再整備事業は、屋根の修復や堂近くの井戸の再生、周辺の石張りや手作りの街灯設置など。整備後の1月28日に行われた恒例の例祭には、日大の学生も参加した。地元の人も掃除道具を持って集まり、復活した井戸から汲み上げた水で清掃を済ませ、扉の奥に安置された石仏に供え物や読経をした。

### 「三島梅花藻の里」にバイオトイレ設置

1月21日、GW三島は大阪の(株)東陽網業(製造元)や東京の太陽コンサルタンツ(株)(販売代理店)と協力し、杉チップを使った水洗式バイオトイレを「三島梅花藻の里」に設置した。

今回設置したトイレは、杉チップがし尿を水と炭酸ガスに分解。分解後の水は、トイレの水洗に再利用され、外部には一切処理水が排出されない、「自己完結型」の循環トイレ。1日200~300人分の処理が可能タイプである。

設置後はGW三島が日常的に管理し、使用頻度に伴う水質変化や臭いなどを調査。実質的なデータをもとに機能を検証していく。

そして、子供たちへの環境教育教材としての利用や、富士山をはじめ国内の環境保護への活用、さらに行政や民間の視察団を通し、広く国内外への普及を目指している。



GW三島活動記録 2005年10月・2006年2月

月	日	項目	内容	実施場所	参加者
10	1	鏡池	整備作業	鏡池	
10	4	都市景観大賞	授賞式	イノホール(東京都)	塚田、原、加藤
10	9~15	英国視察			6名
10	16	三島・鎮守の森探検隊	山中城の歴史と嫌われ虫の観察	山中城址	28名
10	27	スタッフ会議		Via701	14名
10	29	三島市せせらぎ事業推進課	チャンカケ拾い	源兵衛川	GWから52名
10	31	函南さくら保育園	収穫祭	函南さくら保育園	
11	3	せせらぎシニア元気工房	屋台・フリーマーケット・そば打ちイベント	Via701	多数
11	7	コアスタッフ会議		Via701	6人
11	12	三島ゆうすい会	「坊っちゃん」上映会	三島市民文化会館	多数
11	13	三島梅花藻の里	定例作業	三島梅花藻の里	5名
11	15	三島・鎮守の森探検隊	三島の身近な水辺を歩く	三島市内	25名
11	15	スタッフ会議		Via701	13名
11	16	窪の湧水池	水辺説明会・工事説明会	長泉町南部地区センター	50名
11	22	日英GW交流	英国GWスタッフ来訪、現地事前視察	実践地	8名
11	23	日英GW交流	GW全国研修センター 第1回研修会(現地視察、シンポジウム、記念式典)	実践地、みしまプラザホテル	視察40名 シンポ80名
11	24	日英GW交流	GW全国研修センター 第1回研修会	Via701	40名
11	25	日英GW交流	GW三島スタッフとの情報交換会	Via701	10名
11	25	都市景観大賞	授賞式	静岡市内	塚田、渡辺
12	3	そばつくり隊	そばの収穫作業	三ツ谷地区そば畑	25名
12	4	鏡池	整備作業	鏡池ミニ公園	10名
12	4	境川・清住緑地	収穫祭(餅つきと野鳥観察会)	境川・清住緑地	80名
12	10	そばつくり隊	脱穀・製粉作業	悠遊工房ひろかわ	10名
12	17	そばつくり隊	脱穀・製粉作業続編	悠遊工房ひろかわ	10名
12	18	窪の湧水池	現地勉強会&工事説明会	窪の湧水池	50名
12	19	スタッフ会議/忘年会		Via701ホール	14名/24名
1	6	境川・清住緑地	愛護会会議	Via701	5名
1	9	エコ・インストラクター	開講式・オリエンテーション、総論 三島の生き物とビオトープ	Via701	12名
1	11	シニア工房	活動初め	悠遊工房ひろかわ	
1	13	三島測候所を保存する会	三島測候所を保存する市民会議	Via701	40名
1	14	Via701カルチャー	そば打ち教室(講師:安室氏)	Via701	13名
1	15	鎮守の森探検隊	冬の里地の観察	御園・松毛川	15名
1	15	リバー・インストラクター	開講式・オリエンテーション、総論 源兵衛川水辺再生のドラマ	Via701	41名
1	16	エコ・インストラクター	三島の中心商店街のランドデザイン 街中がせせらぎ事業	Via701	22名
1	21	バイオトイレ	バイオトイレ設置と機能の説明会	三島梅花藻の里	
1	23	エコ・インストラクター	三島の観光	Via701	21名
1	25	リバー・インストラクター	狩野川や柿田川の特性について	Via701	35名
1	26	朝日新聞「明日への環境賞」 スタッフ会議	現地調査	三島市内	事務局長
1	26	鎮守の森探検隊	ネイチャークラフトに挑戦!!	Via701	10名
1	29	スキャンジニア号を保存する会共催	よみがえれ スキャンジニア号シンポジウム	Via701	15名
1	30	エコ・インストラクター	三島の農業、三島の食	Via701	40名
2	3	窪の湧水池	石積み着工前の現地立会い	窪の湧水池	22名
2	4	鏡池	清掃作業	窪の湧水池	3名
2	6	エコ・インストラクター	三島の歴史と文学	Via701	29名
2	8	リバー・インストラクター	源兵衛川の郷土史	Via701	46名
2	10	視察対応	安曇野の方々との情報交換会	Via701	20名
2	11	函南さくら保育園ビオトープ	全国学校ビオトープコンクール2005発表会	代々木マリビック青少年センター	30名
2	12	三島梅花藻の里	定例作業	三島梅花藻の里	
2	12	せせらぎシニア元気工房	屋台販売会	Via701エントランス	4名
2	13	三島測候所を保存する会	三島測候所保存署名運動		
2	13	エコ・インストラクター	三島の環境デザイン	Via701	22名
2	19	エコ・リバー・インストラクター	インストラクター実地研修	三島市内	40名
2	20	エコ・インストラクター	三島の歴史と文学	Via701	21名
2	22	リバー・インストラクター	三島の川の昆虫たち	Via701	31名
2	26	松毛川自然観察会	松毛川の野鳥、河畔林の植物などの観察	松毛川	24名
2	26	エコ・インストラクター	修了式、まとめ、交流会	Via701	23名
2	26	松毛川自然環境再生セミナー	松毛川の自然環境や生物について	ブケ東海2Fカトレア	25名

新刊情報



「清流の街がよみがえった」地域力を結集 グラウンドワーク三島の挑戦  
渡辺豊博事務局長著による書籍が中央法規出版より発売中。  
GW三島のこれまでの歩みと今後の発展への思いをとりまとめたものです。ご一読いただくとともに、是非お知り合いの方にご紹介ください。(税込2100円)

みどり野ふれあいの園  
開園10周年記念事業

日時 4月16日(日)  
10:00~12:00

場所 町内会館  
(東町田)

ふれあいの園  
内容 講演 加須屋 真  
記念植樹



視察に訪れたみなさん H17.10-H18.2

月	日	団体名	人数	住所
9	28	日本生態系協会	1	東京都
10	27	太田川水系の水をきれいにする会	5	静岡県
10	29	(財)静岡県生涯学習振興財団	42	静岡県
11	14	北村 貞太郎	1	京都府
11	25	雌子自治連合会	15	岐阜県
12	8	日本福祉大学	5	愛知県
12	13	中之条町青年部連絡協議会	14	群馬県
12	14	特定非営利活動法人国際環境教育機構	28	東京都
12	17	株式会社 ライフ環境計画	2	北海道
1	27	尼崎市役所(都市政策課)	2	兵庫県
1	31	開発技建株式会社地域計画部	4	新潟県
2	3	富士・伊豆地域文化塾	60	静岡県
2	11	社団法人福山青年会議所	5	広島県
2	11	(社)桐生青年会議所	3	栃木県
2	11	関東農政局安曇野農業水利事業所	14	長野県
2	18	明治学院大学保屋野セミ	8	東京都
2	19	インストラクター実地研修	40	三島市
2	24	(株)建設技術研究所	2	東京都
2	25	エコ・スタディーツアー	29	三島市

三島測候所全敷地の取得に向けて

三島測候所を保存する会(結明實代表)が13日夜、「測候所の活用を考える市民会議」を市内で開き、会員や市職員ら約20人が参加した。渡辺豊博事務局長が平成16年(2004)2月の会の設立以降、地元を中心に約1万2千人の署名と約100万円の募金が集まったことを報告。建物内部のスライドを上映し、「狩野川台風などの災害で手書きの観測記録も残っている」と、改めて保存の必要性を強調した。

市は三島測候所を保存する意志を固め、土地買収の方向で検討を進めているが、地元住民の総意としている、全敷地(約3300㎡)ではなく、建物がある敷地周辺(約1000㎡)の買収となっている。

そこで、「三島市の三島測候所の保存と全敷地買収の意志」を確認するために、保存活用運動の拡大と強化に取り組むこととした。具体的には、2万人署名と1000万円の募金を目標とし、市民が中心となった歴史的施設の活用案(環境教育施設等)の策定も進める方針である。

グラウンドワーク三島 ボランティアニュース29号編集室

大島公好子 川崎徳子 岸野和子 城所祖帝 小松幸子 斎藤彩子 坂井良重 山崎多紀子 GW三島事務局(50音順)